

令和4年2月12日（土）

日本生徒指導学会関西地区研究会「元気の出るセミナー」

# 教育と福祉が連携した支援体制整備事業 ～教育と福祉のよりよい連携のあり方を目指して～

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課  
生徒指導・いじめ対策支援室



# 滋賀県の不登校の状況について

- ▶ 公立小学校 不登校児童数 851人（過去最多）  
在籍率 1.05%（過去最高、全国値1.01%）
- ▶ 公立中学校 不登校生徒数 1,358人  
在籍率 3.49%（過去最高、全国値 4.30%）
- ▶ 県立高等学校 不登校生徒数 692人  
在籍率 2.33%（全国値 1.55%）

令和2年度滋賀県教育委員会による調査より

# 教育と福祉が連携した 支援体制整備事業について

## ▶ 背景

いじめ、不登校などの学校不適應には、学校・家庭・社会環境などの子どもを取り巻く環境が大きく影響している場合が少なくない。

本県の児童虐待相談件数は、直近の10年間で約2.8倍

(H21:2,802件→R 1 :7,873件)

子どもの貧困率(全国)は13.5%で、そのうちひとり親家庭の割合(48.1%)が高くなっている

## ▶ 課題

困難な状況にいる子どもへの支援は、日々子どもに係わっている学校現場と福祉部局の行政機関、家庭、地域や民間団体等の全ての主体が連携して取り組むとともに、未然防止や対応強化に向けた取組をさらに充実していく必要がある。

# 教育と福祉が連携した 支援体制整備事業について

## ▶ 目的

困難な状況にある児童生徒が学校等で健康で自分らしく生きられるよう、子どもを育む環境の整備のため、地域における教育と福祉が連携した支援体制の強化・充実を図る。

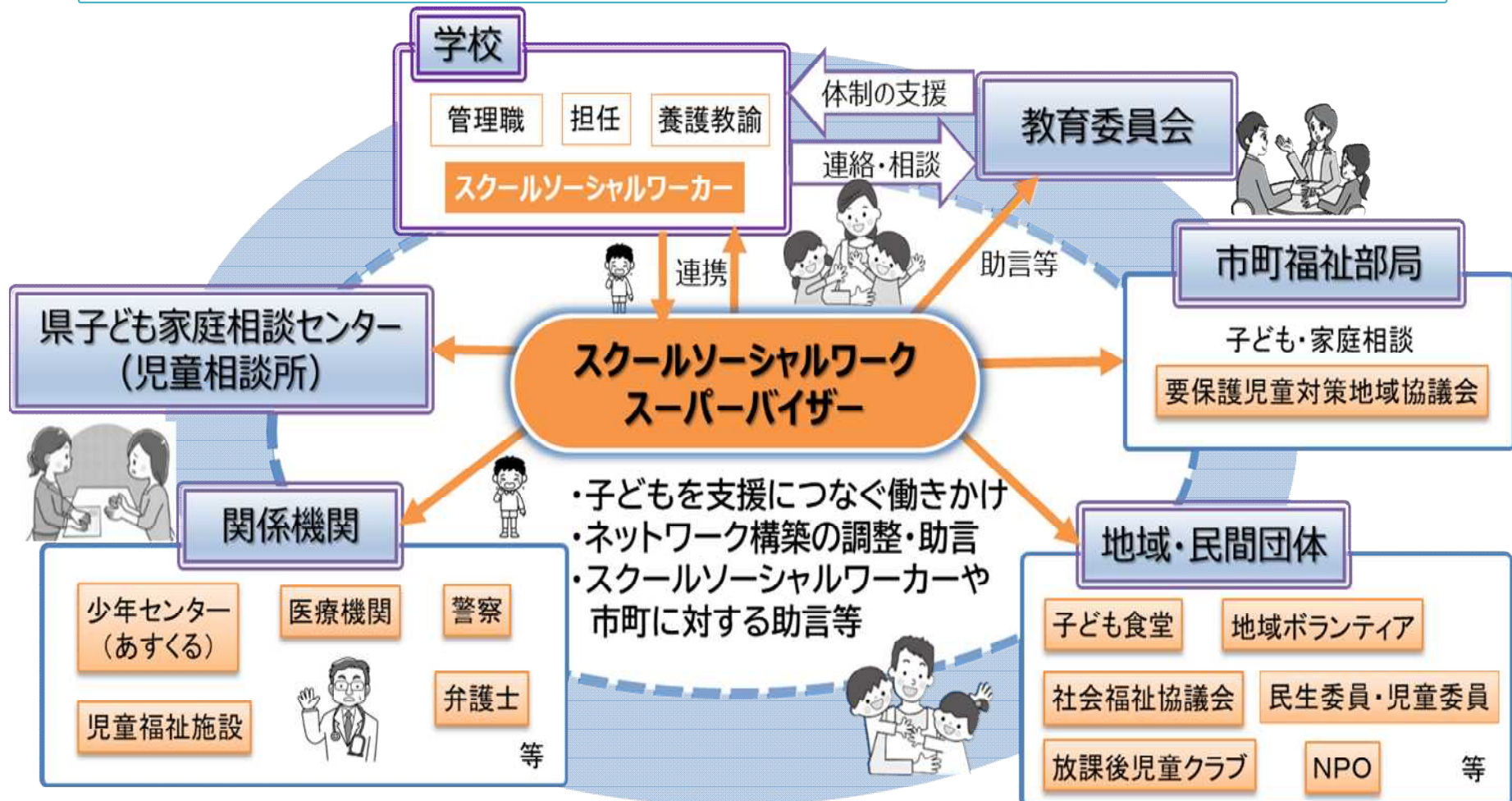
## ▶ 事業内容

県スクールソーシャルワークスーパーバイザーが市町教育委員会を訪問し、学校や教育委員会と学校外の支援者との連携支援、子どもを学校外の支援につなぐ働きかけを行うとともに、地域における教育と福祉が連携した支援体制の構築について市町等へ助言等を行う。また、必要に応じて学校のスクールソーシャルワーカーへの助言等を行う。

**令和元年度から県内3市町でモデル実施**

# 期待される効果

- ・子どもを中心に置いた支援者同士のつながりの強化・充実
- ・連携による新たな支援策の立ち上げ



# 教育と福祉が連携した 支援体制整備事業について

## ▶ 活動内容

- ① 様々な支援を必要とする子どもを、支援を行う関係団体・関係機関、市町福祉部局、市町教育委員会等へつなぐための活動
- ② 学校と関係団体・関係機関、市町福祉部局、市町教育委員会が連携する子ども支援のネットワーク構築に必要なコーディネート
- ③ 事業目的の達成のために必要となるスクールソーシャルワーカーと市町等に対する助言
- ④ その他、県教委が事業目的の達成に必要と認める活動

## ▶ 勤務

- ・各市町において年間80時間以内、週1回2時間程度
- ・地域の実情等に応じた勤務形態となるよう、勤務日・勤務時間を指定



# 活動事例

- ▶ 不登校児童生徒への支援の一つとして、フリースクールを実際に訪問し、収集した情報をもとに一覧表を作成し、各学校に情報提供した。
- ▶ 生活困窮支援の食料支援（フードバンク）と学校をつなぎ、破棄される食品を受験生などの家庭学習の夜食に持って帰ってもらえる仕組みを作ってモデル的にした。
- ▶ 子ども食堂と連携し、臨時休業で余った給食の食材を使ってお弁当を作り安否確認の家庭訪問の時のお土産として届ける仕組みを作った。

# 訪問型緊急食糧支援【子ども弁当】



給食センター  
余った食材



フードバンク

- ① 子育て支援課より  
保護者承諾の確認  
(費用は無料)
- ② 子どもへの説明



つながり  
UP



調理  
支援



市社協

子育て  
支援課

11時～14時

家庭  
訪問



家庭



- ① 安否確認
- ② 食の提供
- ③ 地域資源への信頼

SSW

連携

## 【期待される効果】

- ① 困窮支援
- ② 感染予防
- ③ 食材の有効活用
- ④ 教育と福祉の連携強化
- ⑤ 有志の助け合い強化



学校

## 【期待される効果】

- ① **親が福祉を肯定的に捉えてくれる**
- ② 休校解除後 子どもが  
地域の居場所や  
子ども食堂につながり  
やすくなる





# 緊急支援 食の保障の必要な家庭支援



事業  
目的

## 困難を抱える家庭 要保護性の高い家庭

(子どもを自宅で見る家族がいない・保護者が学校預かりに連れていけない  
困窮・手段の不足で買い出しに行けない 等)



感染予防  
の徹底

## 専門職

(子育て支援課+SSW)

家庭  
訪問

- ① 安否確認
- ② 食の提供

ココ 重要!

親が福祉  
を肯定的に捉えてくれる



食糧支援

子ども弁当



食材

「子ども食堂」作成のお弁当 ➡ 頼れる「モノ」「人」が居てくれる  
➡ 感染予防の観点のアプローチ ➡ 安心 安全  
➡ コロナ感染症に伴う様々な不安軽減の一助に  
➡ 休校措置解除後  
作ってくれた人の「居場所」に遊びに行く 学びに行く

つながる

～子どもを地域の居場所に最終つなぐために～(地域に頼れる人がいる事を知る)

社会が 一番しんどい状況です。  
できる人ができることからの支援を!!

休校中  
の支援



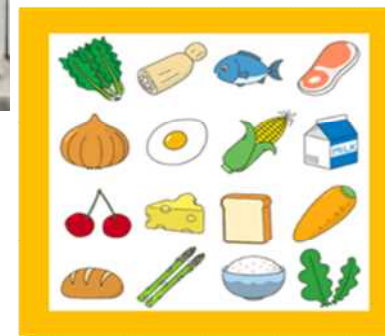
休校中 地域の方が 子どもたち  
にお弁当とマスクを...



フードバンク

給食  
ロス  
をリ  
メイク

共助



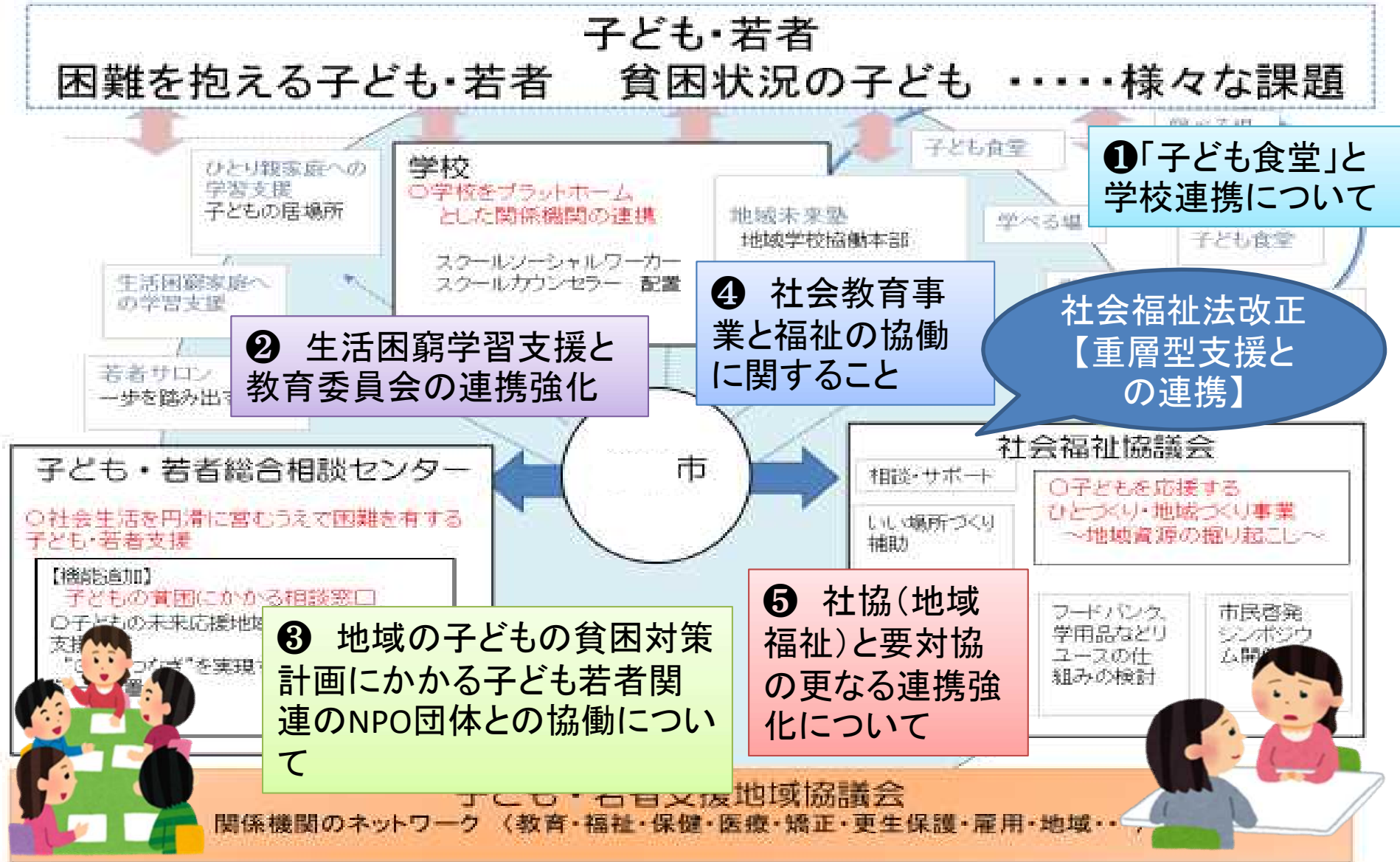
行動自粛中  
飲食店さん  
が協力を



# 市の「子どもの貧困対策計画」

メゾ(体制整備)・マクロ(制度設計)  
ソーシャルワーク

## 各事業の翻訳機能と組織の温度差を埋め合わせを！



# 事業の期待される効果とその結果

連携による新たな  
支援策の立ち上げ



コロナ感染防止版  
「夜の子ども居場所」事業への地域支援

互いの専門性で助け合い「感染対策」プロジェクトを組む

活動再開に ○社協 ○障害者福祉施設 ○地域ボランティア 協働で!!

例 飲食を伴う子どもの居場所がコロナ感染拡大に伴い中止になった。  
【一回目の緊急事態宣言 R2年5月】

感染防止＋子ども居場所機能＋高齢者施設のリユース

コロナ対策感染防止 ➡ 地域の居場所版「新しい生活様式」の開発・助言・体制整備

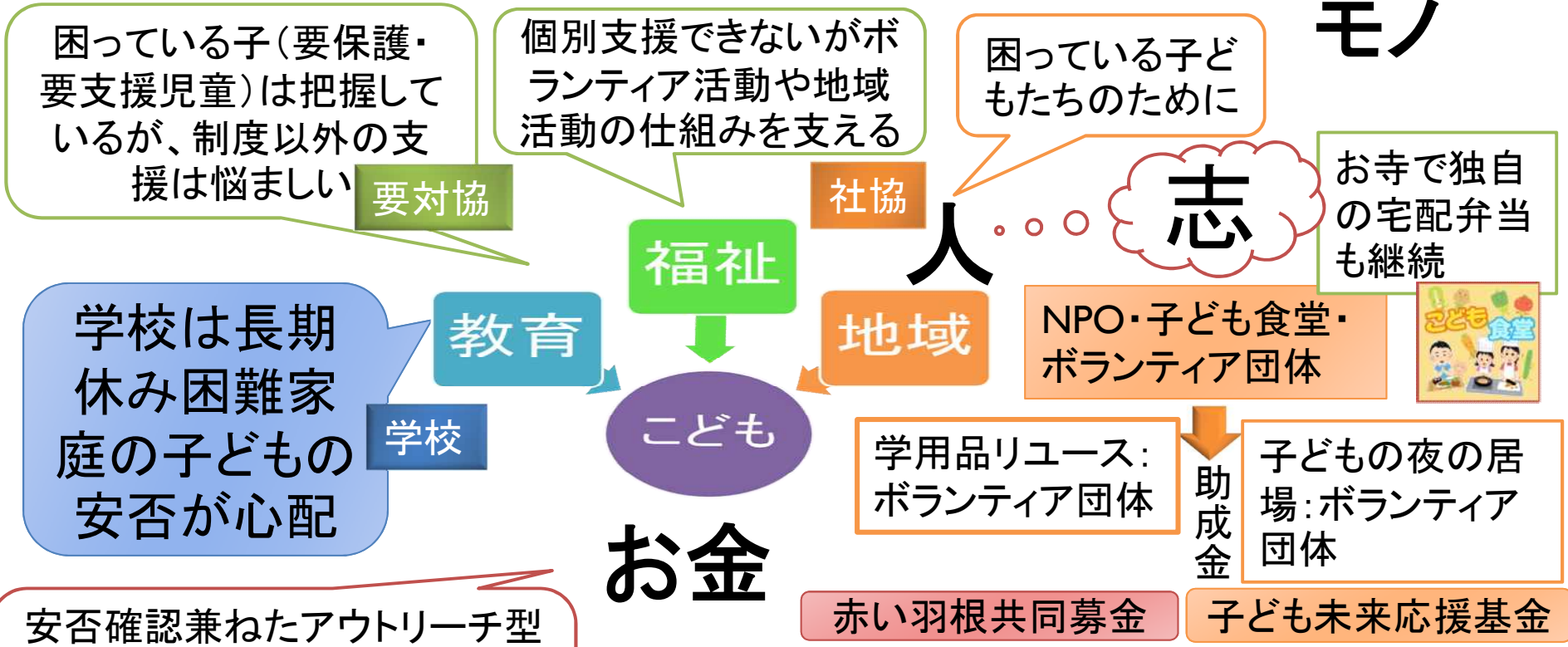
地域ボランティア団体への 助言



# 次年度に続く「持続可能な体制整備」に ソーシャルワークを ～点の資源を 線から面に 「志」を紡ぐ～

課題 → も 強み → + 弱み → × **協働** で 改善できる！

モノ



安否確認兼ねたアウトリーチ型宅配給食。「子どもお弁当」続くといいね...でも予算ない? どうする?

R3の長い夏休み: この仕組みは継続されました

社協...★子どもを応援する基金の設立

行政...地域支援のための★クラウドファンディングができる

子どもの夕刻を支える  
「プロジェクト」



# ヤングケアラー 不登校支援

市を支援

## 「第三の居場所」 社会資源開発 体制整備

～ 教育も福祉も「支援が届きにくい」家族支援に 地域力の有機的な活用を ～

全欠の子  
「現認」  
出来ました

市内で一番福祉課題の多い不登校対策として、既存の仕組みを超えた新たな仕組みづくりを市教委・要対協部局と施策推進を協議し、事業計画立案。  
➡実働(市内のSSW・学校・地域人材)と地域・関係機関の理解で、協働開発。

地域の「まちづくりセンター」借用・区長会やコミュニティスクール理事会で、事業説明し理解得る

### 【調理室と憩いの場の共有スペースの **リユース**】

毎週1回夕方  
ひと家族ずつ



美味しいね

一緒に  
楽しむ



【例】  
初回「揚げパン」  
つくりました。

「ジェンガ」で  
大はしゃぎ！

高校!!  
行きたいな



ありのままで  
いいんだよ

守秘義務守れる立場のスタッフ

放課後  
登校

当たり前の「家庭の安心」を再体験



下がりきった「自己肯定感」「非認知能力」が ゆっくり回復するイメージです



# 成果と課題

## ▶ 成果

- ・ 県スクールソーシャルワークスーパーバイザーが関係部局に働き掛けたことで、市のニーズに応じた児童生徒への支援体制を構築することができた。
- ・ 支援体制を構築する過程において関係部局の連携がより強くなり、その後の支援関係に好循環をもたらした。

## ▶ 課題

- ・ どの地域においても、教育と福祉が連携した支援体制整が進むようにすること。

※モデルケースの分析と検証を行い、市町教育委員会に啓発する予定。